4 県共通設問で実施した尿沈渣フォトサーベイについて

◎小野 篤史[1)]、坂牛 省二[2)]、高杉 洋子[3)]、貝田 奈津子[4)]、下川 波歩[5)]
済生会新潟病院[1)]、平内町国民健康保険 平内中央病院[2)]、公益財団法人 鷹揚郷腎研究所 弘前病院[3)]、地方独立行政法人 市立秋田総合病院[4)]、岩手医科大学附属病院[5)]

【はじめに】
新潟県臨床検査精度管理調査では，2014 年度より青森，秋田，岩手と共通設問による尿沈渣フォトサーベイを実施している．今回，(1)2018 年度に実施したフォトサーベイの県差の有無，(2)各県の赤血球形態鑑別設問における正解率の年次推移，(3)赤血球形態鑑別における新潟県の傾向をみた．
【方法】
対象は(1)2018 年度に出題した 12 設問，Fisher’s exect test を用い，有意水準 5%とし県差の有無を確認した．
(2)(3)2015 年度から 2018 年度までの 4 年間で出題した赤血球形態鑑別 6 設問．各県における赤血球形態鑑別の正解率および新潟県の傾向をみた．「尿沈渣検査法 2010」に準じて回答いただいた．
【結果】
(1)12 設問中県差がみられたのは，設問 7 ・ 8 ・ 9 の 3 設問であったが，設問 8 ・ 9 は正解率が 80%を超えていた．設問 7 は白血球分類の設問で好酸球を鑑別する設問であった．
(2)2016 ・ 2017 年度は小型(2－4μm 程度)で一部に糸球体型の特徴が表れているものの正解率が低く，2018 年度はドーナツ状不均一・標的ドーナツ状不均一・コブドーナツ状不均一赤血球の特徴を捉える設問で低正解率となった．
(3)新潟県においても他 3 県と同様の傾向がみられた．また，赤血球形態を報告しているか否かのアンケートにおいては 2017 年から 2018 年にかけて報告割合に変化は見られなかった．
【考察と結語】
(1)尿中好酸球を鑑別する設問で県差がみられた．尿中好酸球は間質性膀胱炎，間質性腎炎や尿路結石症などで出現するいわれており，臨床的意義がある．無染色標本で鑑別が可能であるが，鑑別が困難な場合はハンセル染色が有効である．(2)(3)糸球体型赤血球の鑑別において低正解率である．尿中赤血球形態鑑別は血尿の由来を推定するうえで非常に有用な情報となる．詳細に観察し特徴を捉えることが重要となる．また，赤血球形態の報告状況は変化がみられず，継続的な啓蒙活動が必要であると考える．

連絡先　025-233-6161　(内線 2238)